

研究テーマ 基礎的な能力を高め、自分の思いを表現できる美術科指導のあり方

1 題材名 白と黒の美しさ

2 単元目標

感動をもとに表現する対象を選び、思いを表現しようとする。

(美術への関心・意欲・態度)

日本古来の建築物や美術品の良さを味わい、対象を省略、強調をしながら自分の思いを表現できる構想を練ることができる。

(発想や構想の能力)

自分の表現意図に合う形や白黒のバランスを考えながら、見通しをもち創造的に表現することができる。

(創造的な技能)

他者の思いや多様な表現のよさ、美しさなどを感じとり、味わうことができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

西洋化、近代化の進んだ現代では、生徒たちは寺社建築や仏像、日本の伝統文化に触れにくくなっている。意図して日本古来の美を生活に取り入れている場合もあるが、実際には多くがそれらから遠ざかった生活をしている。しかし生徒たちは、デザインや文様などの美しさや、それらが我々にとって大切な文化遺産であることを直感的に感じ取っている。そのような中で、修学旅行で日本の伝統や文化と出会った感動や自分の感じとった美しさを表現することは、造形活動に対する積極的な態度を引き出し、独創的な発想や構想力を育てるとともに、自国の文化について理解し、愛情を深めることにつながる。そこで、修学旅行で得た感動を『剪纸(せんし)』で表現する本題材を設けた。中国の民間芸術である剪纸は日本では切り絵と呼ばれ、ナイフを用い一枚の紙を下絵に応じて切り、台紙へ工夫を加えながら作品を仕上げていく。一度切ってしまうとやり直しがきかないため、下絵の制作段階で十分に検討と修正を加え、主題を明確にし、深めていかなければならない。また、作品を仕上げるためには、全体的な制作の見通しだけでなく、各工程における表現方法や用具の特性を生かすための見通しをもつことも必要となってくるため、これまで学習してきた様々な基礎的な能力を用い、中学校3年間の美術学習のしめくくりとして意義ある題材と考える。

1 美術が好きですか？	項 目		
	好き	11	
	どちらかといえば好き	6	
	ふつう	8	
	どちらかといえば嫌い	0	
	嫌い	2	
2 次の活動で、好きなもの・きれいなものはどれですか？	項 目	好 き	嫌 い
	絵に表現すること	4	15
	立体に表現すること	15	7
	作品を鑑賞すること	8	5
3 自分に足りないもの、身につけたいものは次のうちどれですか？ (複数回答)	項 目	足りない	身につけたい
	美しいものを美しいと感じる	11	11
	自分の表現意図を明確にもてる	10	13
	表現意図に応じて構想を練ることができる	13	14
	基礎的技能(形の捉え方、道具の使い方・生かし方)	18	20
	最後まで粘り強くがんばること	18	9
	制作の計画を立て完成までの見通しをもつ	17	11
	作品について自分なりの考えをもち、表現できる	13	15
作品を大切に思う心	5	9	

本学級は美術が好きな生徒が多く、楽しみながら課題に取り組むことができる。しかし、表現のための必要な能力が全体的に不足し、特に制作全体の見通しをもって計画的に作業できない傾向が顕著である。そのため制作を途中であきらめてしまったり、主題を深く追求することを避けようとしたりする生徒が多い。生徒もその点については認識しているものの、基礎的技能の習得をより強く望んでいる。また、できないからあきらめてしまうという現状から、基礎的技能の習得を保証し、それを自分の表現にどのように生かせるか生徒が考え、自分の主題を作品として具現化できるようにしていく必要がある。

そこで、本題材では、自分の主題を十分に表現できる能力を身につけさせることに重点をおく。まず、修学旅行において文化や伝統から受けた感動を基盤にして主題を創出、決定する。その際、自分の思いが明確になるように他者との対話を十分に行いながら主題を深められるようにする。そして、対象の良さや美しさを強調や省略をしながら適切な画面構成ができるようにする。下絵を描くときは強調や省略について試行錯誤させ、対象のもつ良さや美しさを十分に引き出し、表現意図に応じた作品を制作できるようにしたい。また、剪紙に対する知識や技能を十分に充実させ、制作全体の見通しや完成までのより明確な目標をもてるようにすることで、最後まで粘り強く制作に取り組み、主題を深く追求する姿勢を育てるための足がかりとしたい。

4 校内課題研究との関連

生徒同士がそれぞれの価値基準をもって他者の作品を鑑賞し、意見交換する学びあいの場を設定する。その場は、自分の思いを再確認しながら作品について比較、検討、修正を加えていく過程において重要であり、その場での活動が生徒の表現力を高めていくことができると考える。

5 指導計画（9時間扱い 印は本時）

次	時	学 習 活 動	評 価			
			関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1	題材の目標について理解し、学習に見通しをもつ。 家紋のもつ美しさについて考え意見を交換し合う。	・日本の伝統美に興味をもち、進んで表現しようとする。			・家紋の鑑賞を通して日本の伝統美について理解し、よさを味わうことができる。
	2 3	小作品を制作し、剪紙について理解する。 ・道具の特性を理解する。 ・作業手順を理解し、制作の見通しをもつ。			・剪紙について知り、これからの制作内容に見通しをもつことができる。	
2	5 6 7 8	表現意図を明確にしながら下絵を描く。 ・表現意図に応じた形や白と黒のバランスを考える。 紙を切る。 ・道具の特性を生かす。 ・必要に応じて用紙の工夫をする。	・自分の感動をもとに主題を決定し、下絵を描こうとすることができる。	・表現意図に応じた適切な強調や省略をしながら構想を練ることができる。		
			・対象の美しさを表現するために効果的な用紙の工夫をすることができる。	・道具の特性を生かし、制作意図に応じた表現をすることができる。		
3	9	各自の作品の鑑賞、自分の作品の説明、互いの作品について批評し合う。				・作品を鑑賞しよさを味わいながら、互いの作品について批評しあうことができる。

6 本時の指導

(1) 目標

表現意図に応じた適切な強調や省略をしながら作品の構想を練ることができる。

(2) 準備・資料

生徒：教科書，資料集，撮影してきた写真，体験学習でつくった物，クロッキー帳，
定規，コンパス

教師：学習カード，京都・奈良のガイドブック，DVD『おこしやす京都修学旅行』，
京都での体験学習のまとめ，剪纸・切り絵作品例，表現の手引き，
オリエンテーションでの小作品，過去の生徒作品，

(3) 展開

(「表現する力を高める」ための具体的な手立て)

学習活動・内容	指導の手立て・評価
<p>1 本時の学習活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>下絵を描こう ～心に残る感動を作品にしよう～</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・表現意図を明確にしながら下絵を描く。 <p>2 主題を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行での感動を様々な資料をもとに思い起こし，主題を決定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>— 《キーワード》 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の美 ・文化遺産 ・伝統 ・味 ・修学旅行テーマ 『心も頭もお腹も満タン修学旅行』 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>— 《資料》 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影してきた写真 ・体験のまとめ ・体験学習でつくった物 ・ガイドマップ ・過去の作品例 ・DVD『おこしやす京都修学旅行』 </div> <p>3 下絵を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に応じた画面構成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りカードに記入した内容をふまえて，本時の課題意識を高める。 ・前時までの活動をもとに下絵づくりから完成までの見通しをもたせ，剪纸における下絵の重要性を意識しながら活動を進めることができるようにする。 ・キーワードをもとに修学旅行を振り返り，自分の感動や経験をもとに主題を創出できるようにする。 他者との対話を通して，自分の思いを言葉で伝えあうことでより主題を明確にし，深めることができるようにする。 ・自分がなぜその場面を作品にしようと思ったのか，対象から受けた感動やよさ，美しさを学習カードに言葉を使い記入するよう促し，それと作品を照らし合わせ，常に振り返りながら活動することで，主題に応じた制作の足がかりとできるようにする。 ・なかなか主題を創出できない生徒には，様々な資料を用いた視覚に訴える環境から，京都や奈良での体験や味わった感動を思い出すことができるようにする。 【努力を要する生徒への支援の手だて】 ・自分で得た感動を言葉でうまく表現できないときは，一番の思い出に残っている場面をもとに連想した言葉をあげ，それをもとに主題を決定できるようにする。 ・小作品の制作で学んだことを生かしたり，過去の作品を参考にしたりしながら，剪纸による表

現に適した画面構成ができるようにする。

- ・オリエンテーションで制作した小作品や過去の生徒作品をもとに，用紙や台紙の工夫についても考えながら作品の構想を練ることができるようにする。
- ・風景の描写だけでなく，様々な対象を用いて画面構成を行うデザイン的な表現方法でも十分に自分の主題が表現できるということを，参考作品を鑑賞しながら気付くことができるようにする。
- ・必要に応じてコンパスや定規等を使うよう助言する。
- ・対象の省略や強調は，その部分にのみ視点を注ぐのではなく，全体的なバランスを見ながら作業を進めることができるようにする。
- ・用いる紙の種類や台紙への彩色などの工夫による表現も考慮しながら，それぞれが個の能力に応じた適切な対象の省略ができるよう助言を行う。

必要に応じて意見交換の場を設定し，生徒が互いの表現から自己の作品を振り返り，表現を高めていけるようにする。

(評) 自分の主題を明確にし，それに応じた画面構成を練ることができる。

作品，学習カード

【努力を要する生徒への支援の手だて】

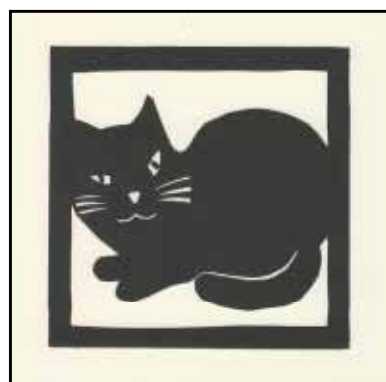
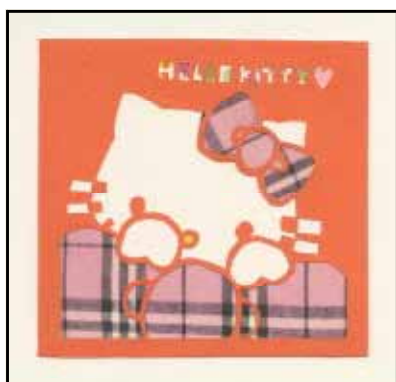
- ・モチーフの省略・強調がうまくいかない場合には，具体的な例を用いて作業のきっかけづくりをする。
- ・画面構成においてつまづき見られるときは，アイデアスケッチのトリミングやモチーフを拡大，縮小コピーしパズルのように再構成することで，剪紙による表現により適した画面構成について気付くことができるようにする。
- ・学習カードへの本時でわかったことや感じたことをの記述から，次時の課題をつかみ制作の見通しがもてるようにする。
- ・本時の活動の質問や疑問，作品に対する不安の記述を，次時の支援に生かせるようにする。
- ・今後の全体の活動時間についてふれ，計画的に制作が進められるようにする。

4 本時のまとめをする。

- ・学習カードで本時の振り返りをする。
- ・次時の確認をする。

生徒作品

【小作品】



【本課題】



